

電子複写不可

昭和三十年十二月

# 宮古島戦史資料

原本史料

備品

防衛研修所戦史室  
山砲兵才二十八联隊



庚午年正月

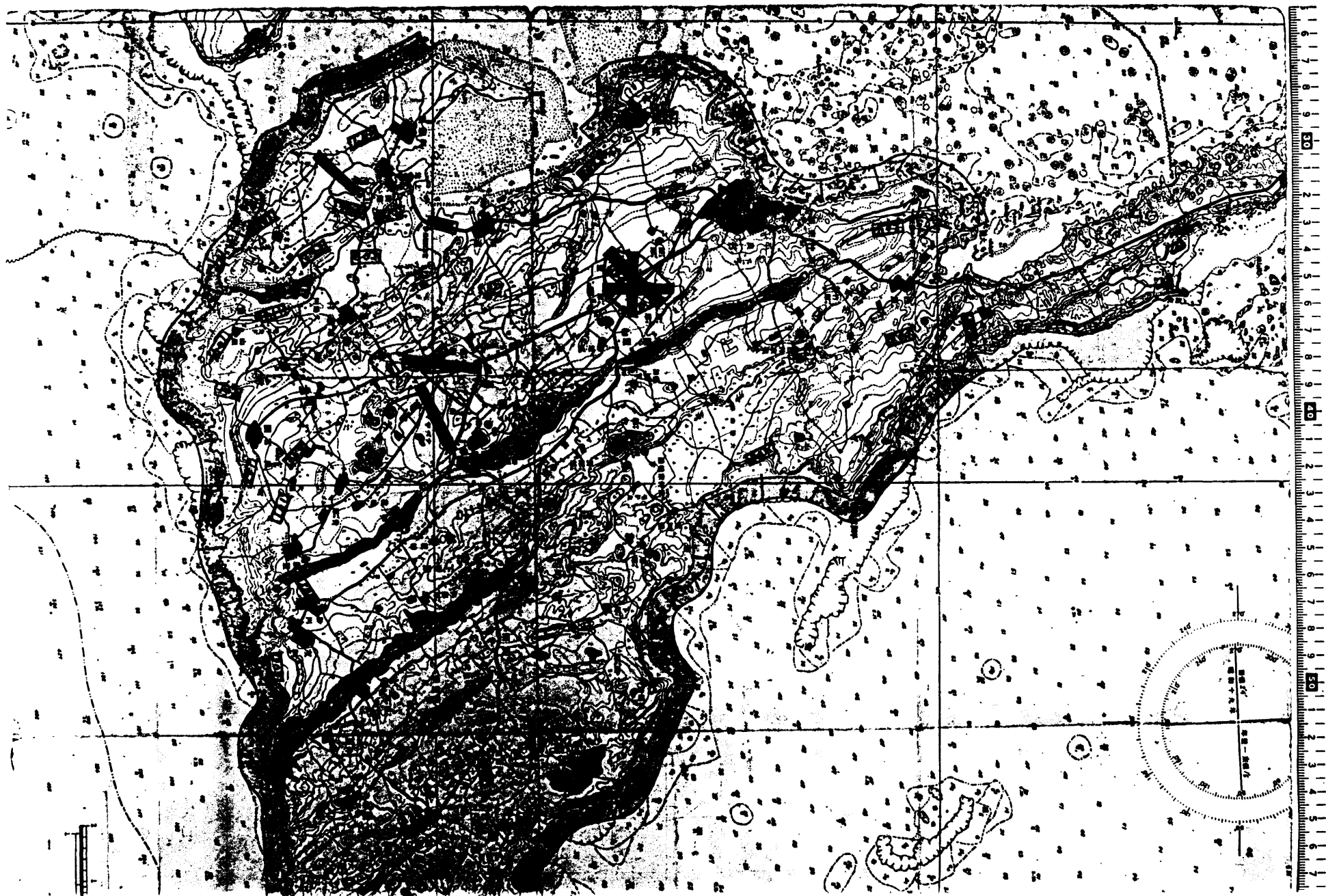
長吉為穀與料

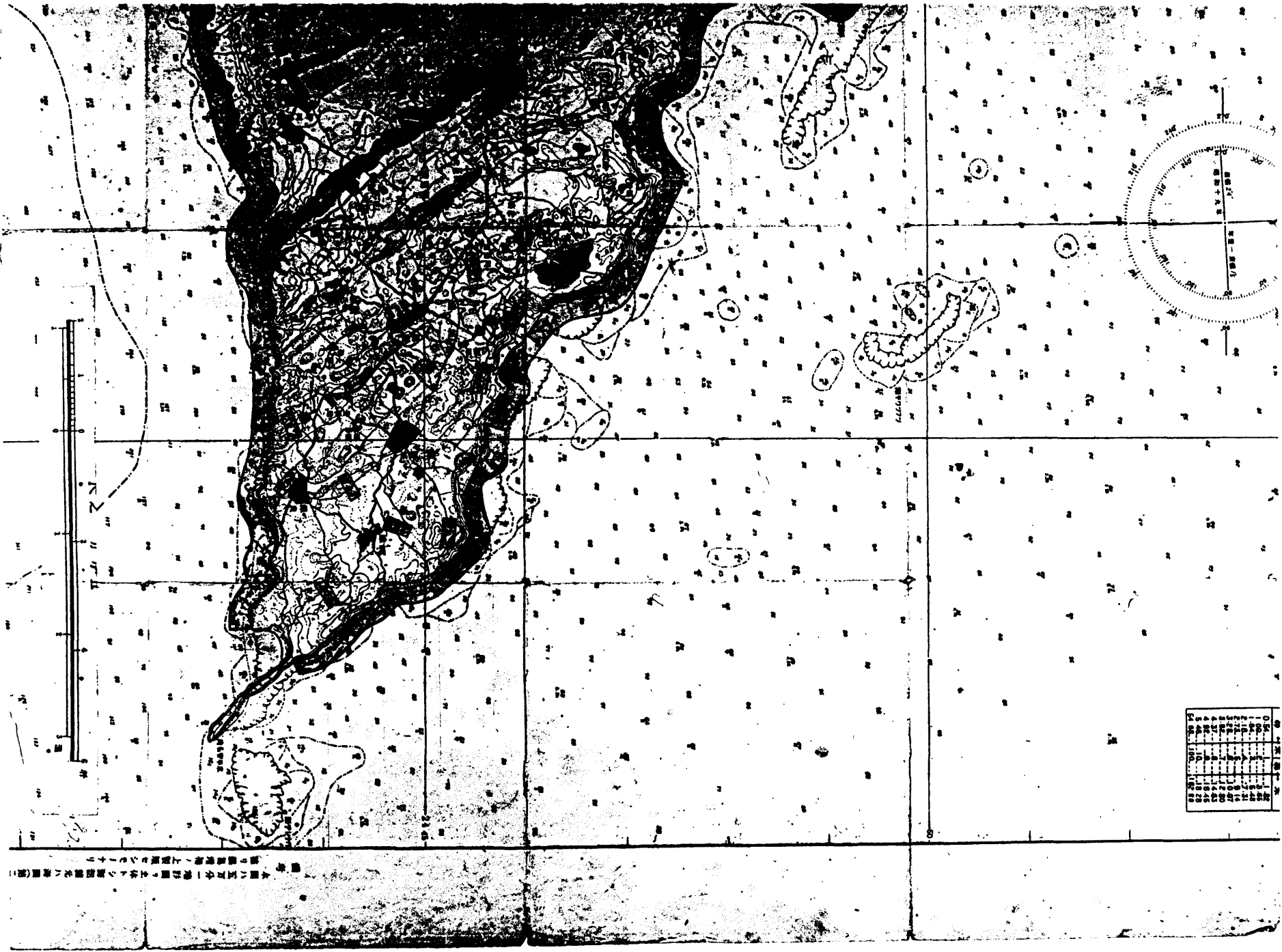
山沈兵第三子



1919







0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

圖 1 本圖八五及全一魚類圖。本圖八五及全一魚類圖(圖1)

# 序

知

昭和

三十二年

三月

二十日

午後

六時

至

八時

止

物

類

志

業

書

局

刊

に

あ

ら

せ

り

ま

は

の

て

い

ま

す

べ

し

ば

い

は

の

て

い

ま

は

天下の有志者  
必皆神龍として  
昇天してゆく  
此の世に  
是れが世に  
是れが世に  
是れが世に  
是れが世に  
是れが世に  
是れが世に  
是れが世に  
是れが世に

昭和二十九年三月一日

権 名 誠

此乃有學也  
作事以神氣  
去思之理雖非  
健是正心而  
此心之在何  
非妄念之  
此心之在  
此心之在  
此心之在  
此心之在  
此心之在



宮古島に於ける作氣は其料の未  
終戦に方て焼却しをて何物も残して  
のたの奉 戦史資料の編纂に決し  
海軍に於て上司の命を以て記  
憶を喚起してあつたものがある。故に  
標榜もあつたと共に確及亦之の伴つた

此項... 戰史資料

戰史資料

砲兵第二十八聯隊

戰史資料

山砲兵第三大隊(宮古島)

調製官 陸軍大佐 梶 枝次郎



一編成裝備關係

山砲兵第三大隊

本部又三大隊(第一大隊九四山砲 第二大隊十糧山砲)

將校以下 二三五〇 馬 一〇 一二〇

山砲大隊ノ編成 本部三中队 大隊段列)

中队ハ將校以下 一六五 九四式山砲 四門

大隊段列ハ將校以下 一三〇

十糧大隊ノ編成 山砲 二同

中队ハ將校以下 二〇五 九九式糧山砲 四門

大隊段列ハ將校以下 一三〇

彈藥裝備 山砲一門 二五〇〇

十榴一門 一五〇〇

野戰重砲兵第二聯隊第六大隊

本初及三三隊トシ段列ヲ欠ク

一十隊 九六式十五榴 四門

獨立混成第六十旅團砲兵隊

本初及三三隊(其他一十隊)地區隊ニ配屬シテリ

一十隊 輕迫撃砲六門 裝備彈藥一門七五〇

特設迫撃隊(山砲兵第二師團)榴重兵及ヲ編成ス

本初及三三隊

一十隊將校以下六〇 三八八輕迫撃砲六門(全砲海軍兵器)

海軍砲台 五隊

一砲台(兵曹長以下約三十五)

備砲ハ友利砲台 十五加 二門

ポンツ砲台 十二榴 二門

與那利砲台 十二榴 二門

早良砲台 十五加 二門

六高砲台 短三榴 二門

2. 職員表別表ノ如シ

3. 人員兵器等ノ増減關係

昭和十九年十月特設迫撃隊ヲ聯隊人員及ヲ編成ス之ガ爲左

ノ兵器ヲ增加裝備ス

八榴迫撃砲 二十四門 (昭和十九年十月)

九〇式高榴砲 五〇發 (昭和十九年九月)

九〇式高榴砲 五〇發 (昭和十九年九月)

九〇式高榴砲 五〇發 (昭和十九年九月)

八榴迫撃砲 三三〇發 (昭和十九年十月)

二部隊復歴ノ概要

山砲兵第三大隊臨時編成部隊トシテ昭和十五年八月十五日滿洲國公主嶺ニ於テ編成完結後哈爾濱齊家屯齊齊哈爾一駐屯滿洲國ノ警備ニ任ス

昭和十九年八月廿七日出勤命令下リ八月十一日宮古島ニ上陸同地ノ警備ニ任シ九月上旬ヨリ約一ヶ月間宮古島飛行場敷設作業ニ從事ス

同年十月台灣沖航空戦ニ参加

昭和二十年五月本ヨリ六月二十日ニ至ル間天一號作戦ニ参加

昭和二十一年八月十五日終戦ノ大詔ヲ拜シ爾後引續キ同地敷設備ニ任シ十月以降逐次復員輸送ヲ實施其ノ主力ハ一月復員ヲ完結ス

三指揮隷屬關係其ノ変遷ノ概要

一聯隊ハ主力外野戰重砲兵第二聯隊第二大隊獨立混成隊

六十放團砲兵隊特設迫撃隊獨立速射砲第五大隊海軍砲台ヲ併シ指揮シ先島集團砲兵隊トナル

二獨立速射砲第五大隊ハ昭和二十年二月指揮下ヲ脱シ集團直轄トナル

三地区部隊配屬砲兵左ノ如ク

北地区隊 第五中隊 第四中隊ノ一小隊

南地区隊 第三大隊(第五中隊及第四中隊ノ一小隊ヲシテ)

東地区隊 第一大隊(第三中隊ヲシテ)

伊良部地区隊 第三中隊

各地区隊配屬砲兵ハ昭和二十年二月左ノ如ク變更セラレ

北地区隊 第五中隊

南地区隊 第六中隊

東地区隊 第三中隊

右ノ外ニ第一大隊(第三中隊欠) 第三大隊(第五六中隊欠)ハ

聯隊長直轄トナル

聯隊長直轄トナル

6. 第三中隊ハ昭和二十一年五月上旬伊良部地区隊ノ指揮ヲ脱シ  
聯隊長ノ隷下ニ復歸ス

四作戦準備關係

一 作戰計畫ノ概要

方針

砲兵隊ハ敵ノ上陸戦中ニ際シ先ズ主火力ヲ上陸地奥奥  
中其ノ企圖ヲ水際ニ破砕シ次ガ所要火力ヲ以テ戦中  
戒部隊ノ戦中ノ協力ニ爾後主陣地ノ確保ニ任ズ  
狀況已ハテ得ザル場合ニ於テ陣地内據拠ニ位置シ最後  
一彈ニ至ル迄戦中ヲ遂行ス敵ヲ飛行場使用ニ致ス  
陣地構築ノ順序ハ陣地構築要領水際戦中ノ爲メ陣  
地ヲ速カニ概成シ次テ警戒部隊及ビ主陣地戦中ノ爲メ  
スノニ及ゲ

各陣地共一中隊少クモ三百米以上ニ分散シ敵ノ砲撃ニ對シ  
完全ニ掩護セラルル如ク洞窟式ノミヲ採用ス又予備陣地少  
クモ二三所設ク  
通信連絡ハ無線及ビ視号ニ依ル  
陣地構築ノ細部位置要圖ノ如シ  
全島要地ニ測地ヲ實施ス

火力配置ノ概要

全海面及ビ陸上周圍地区ヲ要圖ノ如ク地域符号ニ並ニ番  
號ヲ定ム  
火力配置ノ重点ハ南地区正面北地区ノ佔ツ根拠及ビ平良  
地区トス  
其ノ他細部ノ火力配置ハ測地ニ依リ設定ス  
火力ハ至短時間ニ發揚スルヲ旨トシ概ネ二分以上射撃ヲ継  
續セザル如ク實施ス

對戰車射撃ハ至近距離(三〇〇米)以内ヨリ射撃シテ數發ノ  
後陣地ヲ変更スル如ク準備ス

乙陣地構築ノ概要

(1)陣地ハ上陸後直ニ構築ヲ開始セルニ九月飛行場設定作  
業ノ爲約一ヶ月間中止スルノ已ムキニ至ル

(2)陣地構築ノ速度左ノ如シ

堅サ岩石部 一日ノ掘開量約五十程

中程度并横 一日ノ掘開量約一万五ニ米

(3)一般陣地ハ多少攻撃セルニテ破壊セラレズ着陸地ノ即破  
壞セラレタルニ數日ニテ補修ス

高聯隊主力ハ神龍作戦開始タルヤ陸軍中隊行場ノ補

修作業ヲ命ゼラレ四月乃至七月ニ至ル間十數回ノ飛行補

修作業ヲ行ヒ概テ一回四乃至五時間ニシテ完了ス

丙所要人員使用資材

丙所要人員使用資材

上陸後ヨリ概テ六ヶ月間ハ主力又テ構築ニ從事セルヲ以テ一日  
平均作業人員ハ五〇〇名ニシテ爾後逐次自若作業ノ  
強化ト共ニ減少シ一日平均約一〇〇〇名ヲ以テ陣地構築ノ  
カリ

本構築ニ使用セル資材左ノ如シ

板瓦 八〇〇〇〇本 (三十四米ニ)

円 匙 九〇〇本

十字 四〇〇本

石工具 三〇組

燐 菜 七五〇程

釘金釘 匙 二〇〇〇程

不完成ノ時期及強度

陣地完成狀況左ノ如シ

半洞窟程度多し 二十年三月概成

洞窟式ノ多し 二十年七月下旬概成

肉攻素 二十年二月下旬完成

強度

十五榴 五〇一〇〇〇所 炸彈抵抗得共 一門一箇

五〇一〇〇〇所

十榴 五〇一〇〇〇所 一門三箇

五〇一〇〇〇所

山砲 五〇一〇〇〇所 一門四箇

五〇一〇〇〇所

迫撃砲 山砲ニ同ジ 一門五箇

右ノ外十榴山砲迫撃砲ハ準備陣地トシテ半洞窟式ノ多シ一門ニ箇程度ヲ構築セリ

訓練ノ状況

陸軍

宮古島上陸後數ヶ月間ハ陣地構築ニ専念セルニ爾後ハ訓練ヲ得行ヒメ教育ノ重要ヲ對戰車戦斗及挺進切込訓練ニ指向シ特技以下陣地構築ノ寸暇ヲ利用シ反復訓練ヲ實施ス  
特ニ對戰車肉薄攻撃ハ特技以下十所炸彈雷又チ行ヒ挺進切込訓練ハ特技以下攻撃班ヲ編成シ訓練ヲ連續實施ス

其ノ他砲兵隊ノ展開訓練、射撃訓練、近距離對戰車射撃、舟艇射撃、集中射撃、阻止射撃、水陸戦斗及心至陣地戦斗訓練ヲ實施ス

又上陸以後幹部教育ヲ屢ニ實施シ戰術ノ他ハ凡テ現地教育ニ徹ス

五戰斗状況

(ハ飛行場防衛戰闘(自四月十五日)



聯隊ハ本部第一隊二天隊ヲ以テ四月十五日拂曉近ニ野原岳迄・花切ハ六高地周邊ニ陣地ヲ占領シ連日未獲セシ敵機ニ對シ通時有効ナル射撃ヲ送リ敵ノ飛行場攻撃ヲ著シク制限ス

(四)天一號作戰ノ際(自五月二十日)

敵機動部隊ヲ總本部島周邊ニ未獲スルニ宮古島ニ對シ敵機ノ未獲ハ益々劇トナリ本作戦ニ於ケル特攻機ノ基地タル宮古陸軍飛行場ノ防衛ノ強化ヲ命ゼラレ聯隊ハ少砲ノ全力ヲ及テ同周邊地迄ニ展開シ連日未獲セル敵機ニ對シ通時有効ナル射撃ヲ送リ敵ノ飛行場攻撃ヲ著シク制限ス

右戦闘間ニ於ケル展開要圖別紙要圖ハ如シ

ニ機動部隊ノ未獲狀況

敵機動部隊ハ十月十日以降終戦ニ至ル間十数回ニ亘リ宮古島南方海面ニ〇〇乃至三〇〇軒附近ニ現出シ連日

其ノ監視機ヲ以テ未獲セリ

〇七月四日十時五十五分敵艦巡洋艦駆逐艦ヲ合ハ十六隻ノ敵艦隊ハ西也オヨリ海上八〇〇米附近ニ近接約十五分間ニ亘リ三百六十発ヲ以テ飛行場並ニ陣地要部ニ對シ射撃セリ

敵機ノ未獲狀況

敵機ハ昭和十九年十月十日ノ南西空襲ヲ最初トシ兩機連日〇二九〇二少敵機ヲ以テ偵察ヲ實施セル外一月以降逐次艦載機ヲ以テ未獲セリ

特ニ四月下旬以降ハ神堡作戰ニ併行シ艦載機(石F44 70F 82c)等數十機ノ編隊ヲ以テ連日主トシテ拂曉ヨリ夕刻ニ至ル間十数回ニ亘リ飛行場陣地並ニ基地ニ對シ夜夜攻撃ヲ實施セリ

敵機ノ未獲

本戦中、敵機襲撃に遭ハシテ損害甚クシ

撃退 (艦載機撃破) 三機

撃破 (可石) 一機

六給養衛生

人給養

主食ハ上陸當初集團ニ於テ約一ヶ年分ヲ集積セシメテ  
十月廿月迄ハ日量五三〇瓦ヲ給シ何等支障ナカリシモ  
七月以降逐次減量ヲ實施シ十月ニ米ハ三分ノ一量  
ノニシテ十一月至リタルニ甘藷自給ヨリ八月以降毎日一〇  
乃至五〇〇瓦ノ甘藷ヲ給セリ

副食ハ二十一年一月ニ至ル間ハ現地ノ野菜精肉ヲ購入爾  
後ハ自給ニ依リタルニ程メテ少量ニシテ之ガ爲種々ノ  
養障善ヲ惹起セリ  
専兵ハ終戦後日量四〇〇ハ〇瓦ヲ給セリ

二衛生

非衛生的ナル輸送ニ次ヤ飛行場設定作業陣地構築等  
業等ニ依リ兵ノ体力ハ兵舎ノ設備不完全ト相俟ケテ  
逐次低下シ昭和二十一年三月リテヨリ戦争東養失調症ヲ  
始メ種々疾病多発セリ

不急性傳染病

上陸當初非衛生的輸送ヨリ腸チフス、A型パラチフス  
ノ多発ヲ見タルモ十月ニ概ニ終熄セリ

昭和二十一年七月A型パラチフス再々散発セリ

尚全期ヲ通シテアネバ陸未病ハ細菌性赤痢散発

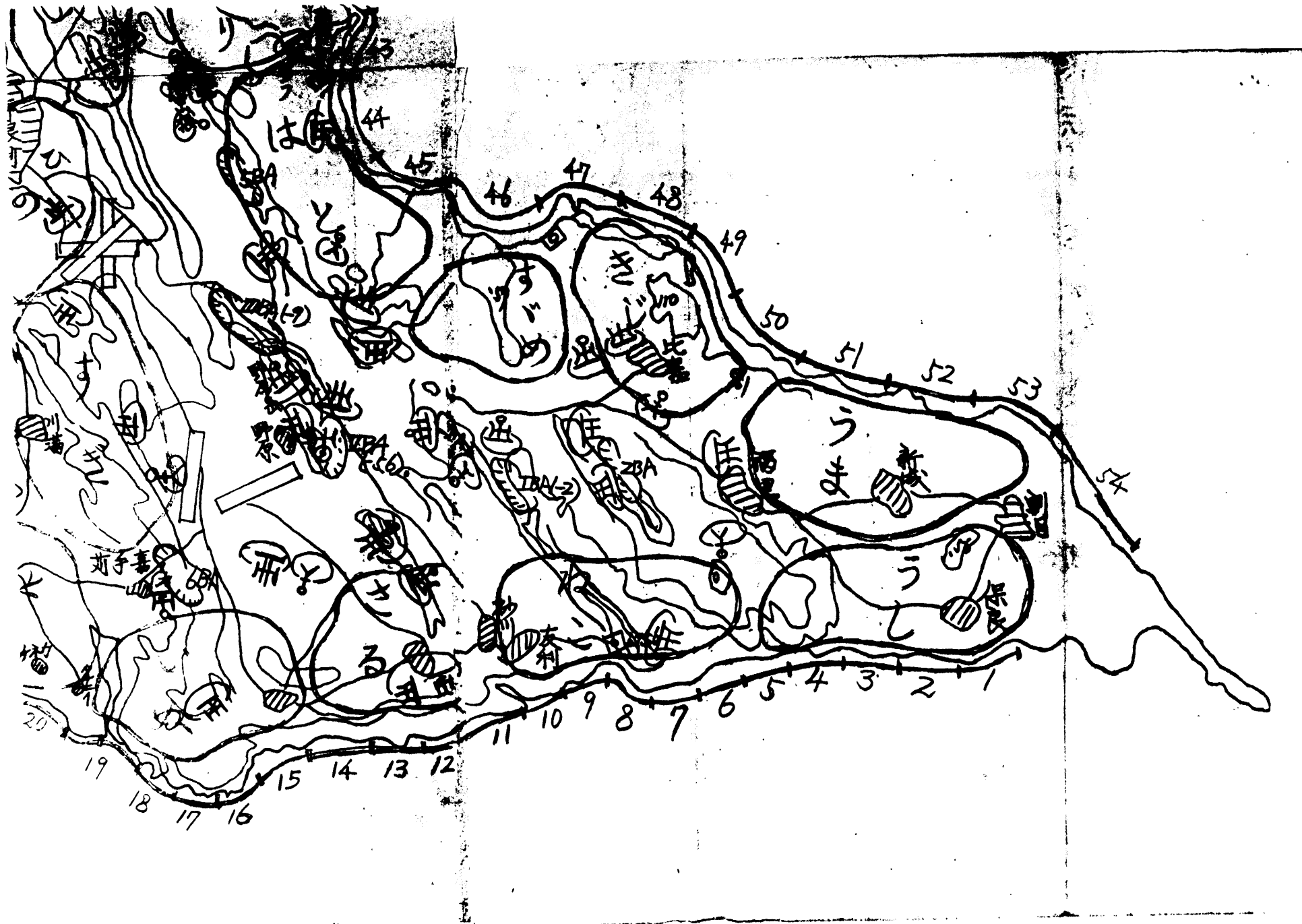
シ殊ニ後者ニ於テハ死亡率高ク之ガ予防ニ甚ナル  
努力ヲ要セリ

口マラリヤ

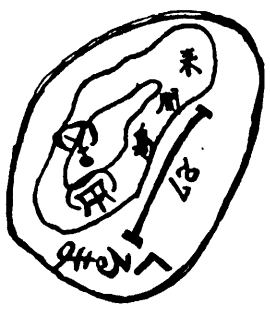
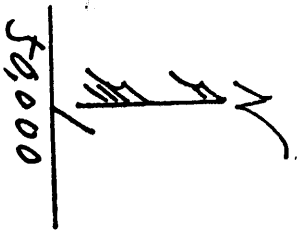
好発時期ハ九月及五月ニシテ十九年九月及二十一年五月







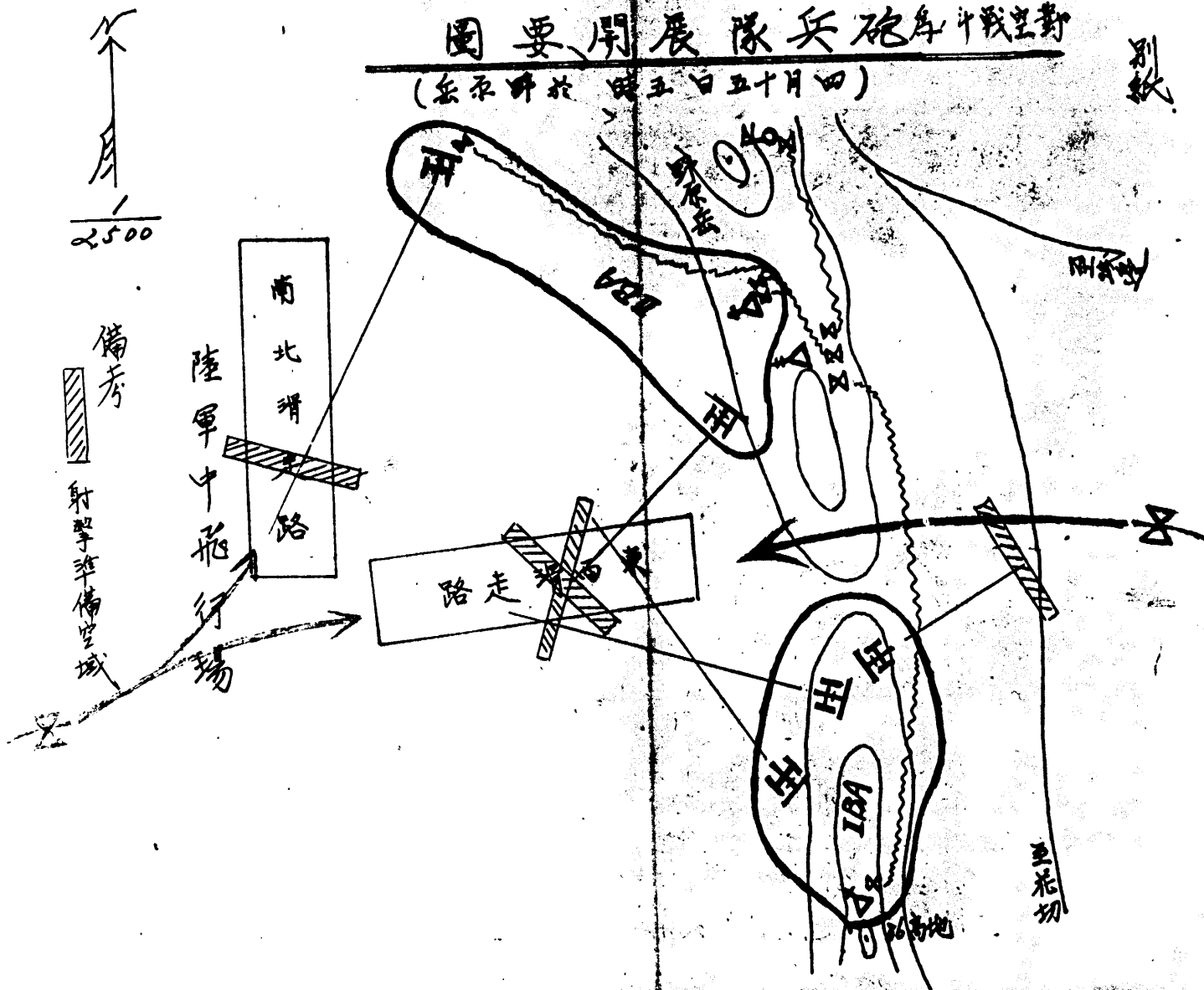
# 陣地構築要圖

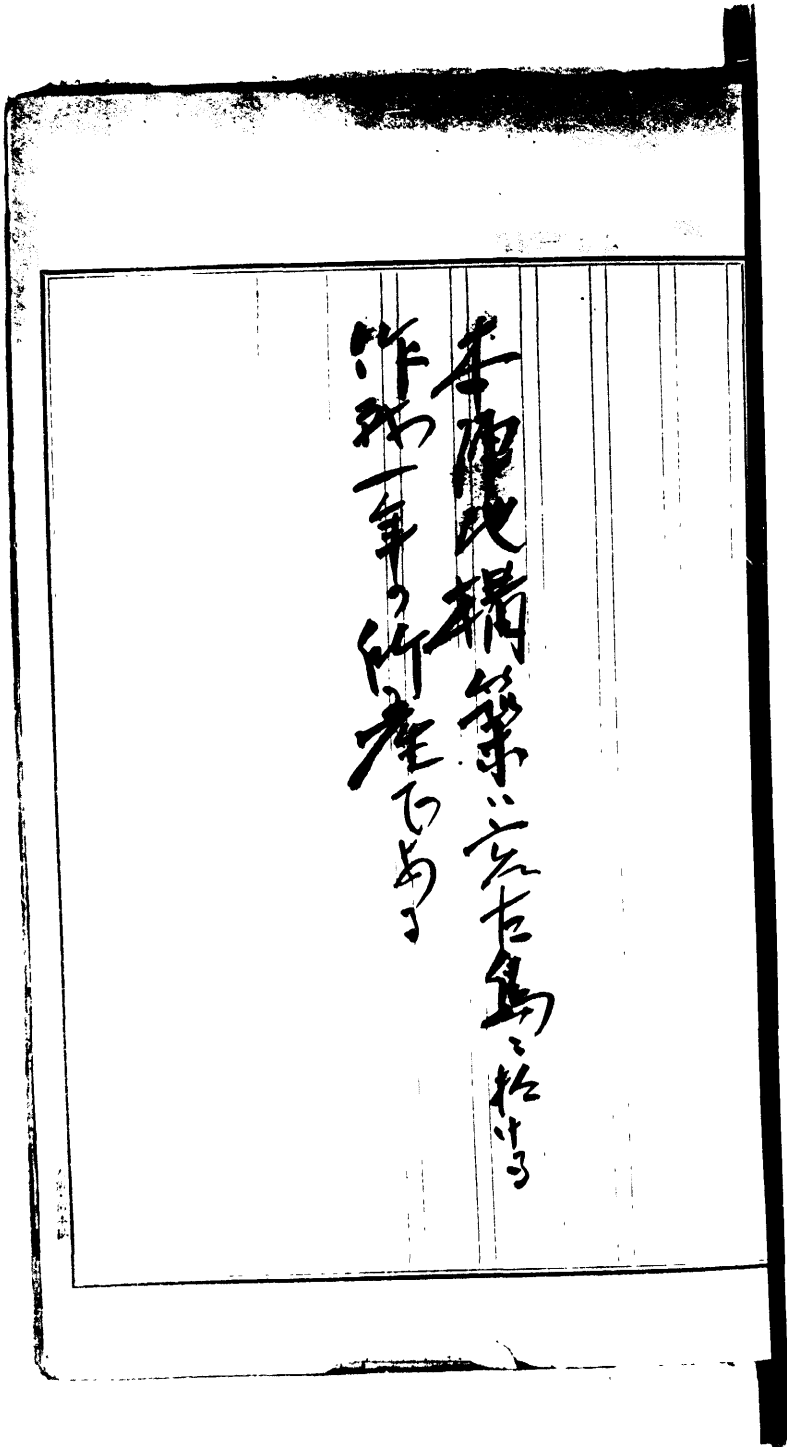


# 對空戰鬥砲兵隊展開要圖

(四月二十五日 野原 原)

別紙





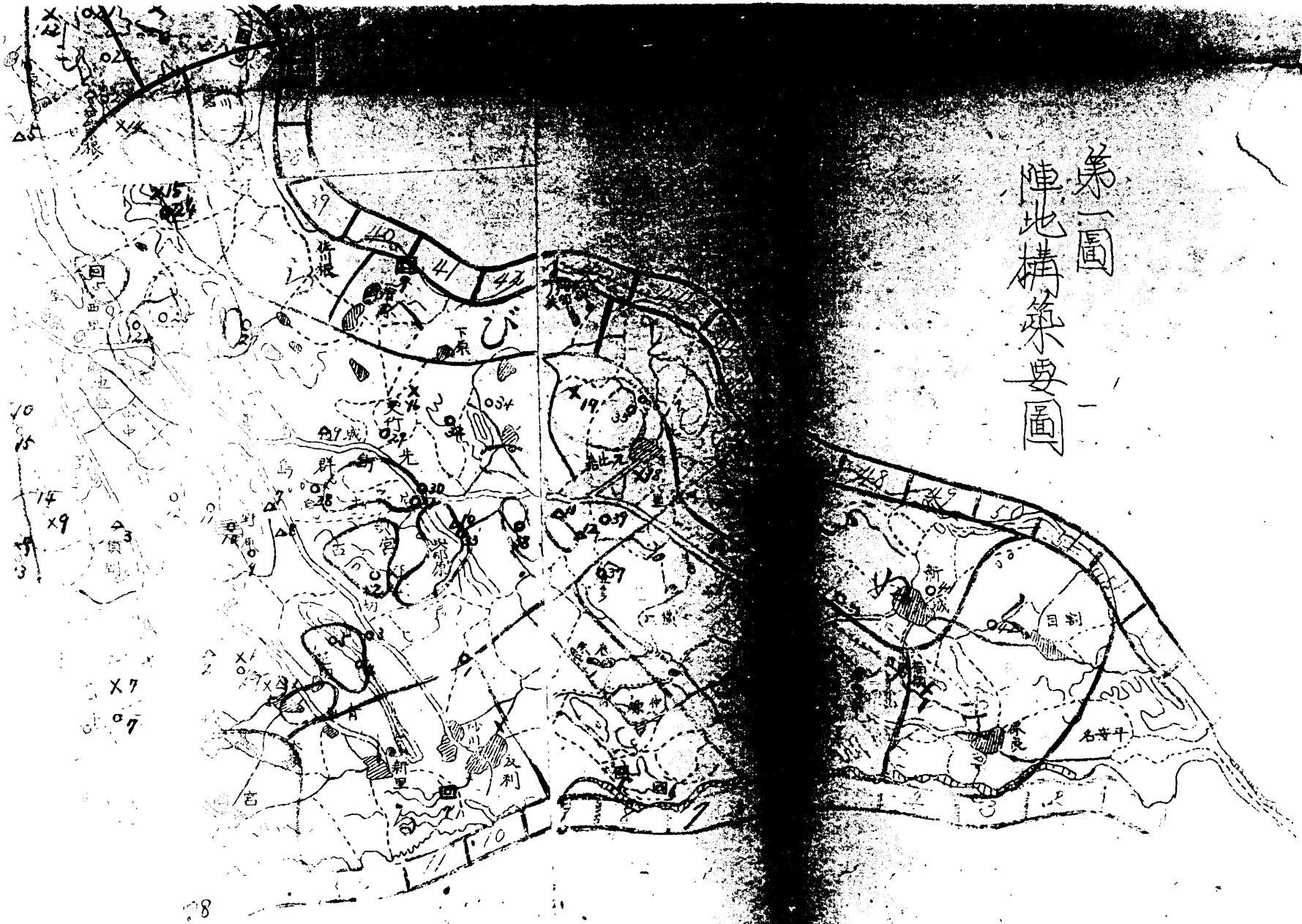
本年此地精築之古島に於て  
昨年一年の所産百あり

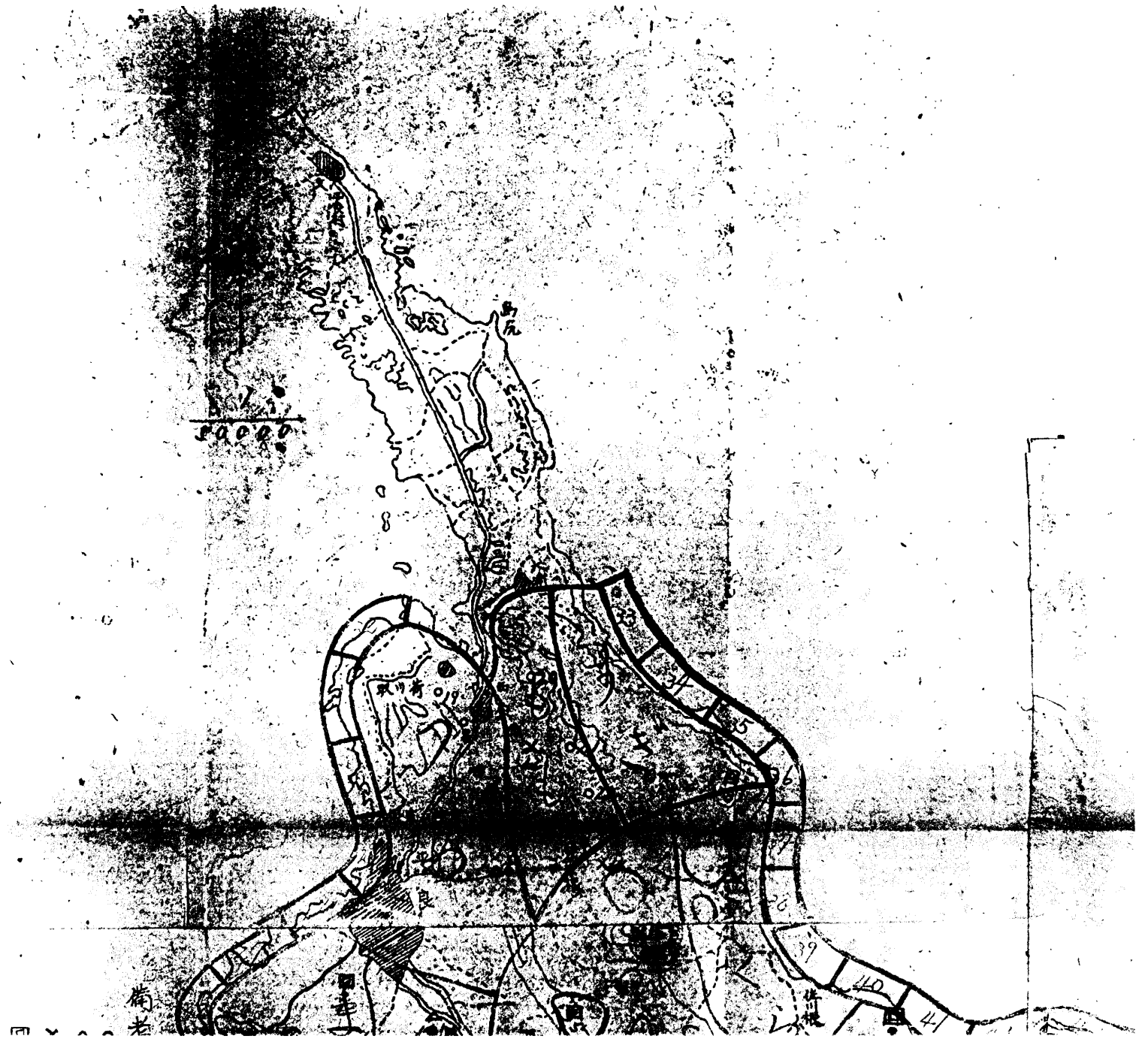
Vertical text on the adjacent page, mostly illegible due to high contrast and blurring.





第一圖  
陣地構築要圖





衛老

...

...

39

40

41

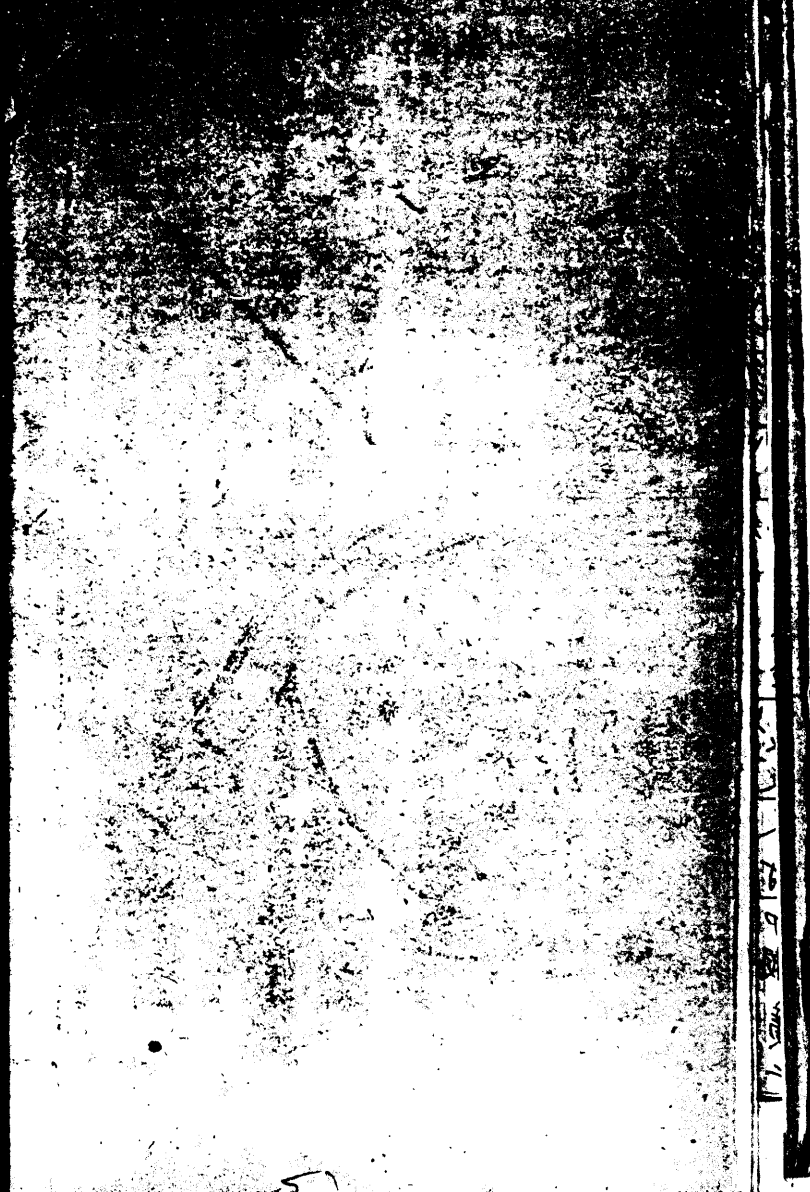
備考

○ 八山死  
△ 八土猫  
× 八迫擊  
回 八砲台及水隊  
置山記



天隊陣地構築一覽表

16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射
34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19
下原七九高地	下原七九高地	下原七九高地	下原七九高地	下原七九高地	下原七九高地	下原七九高地	下原七九高地	下原七九高地	下原七九高地	下原七九高地	下原七九高地	下原七九高地	下原七九高地	下原七九高地	下原七九高地
川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射	川南地方四七高地西方一射



36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		
四	四	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二		
比嘉北端北方二百米	比嘉北端西方二百米	五ノ多ノ高地西側	長間南側	川治道城垣新道西側高地	福里北端東方新小川線西側	初城東端北方と白米凹地	初目北端西方八百米	宮古島七東側	八ノ不東方五百米	横間南側	平良南端南方二百米	竹原南方新一本木高地東側	西仲家根北方五百米	西野原去東側	西野原南方新線東側	更所西方新高地南側	更所東方五百米高地東側	更所東方五百米高地東側	更所東方五百米高地東側	更所東方五百米高地東側	更所東方五百米高地東側	更所東方五百米高地東側	更所東方五百米高地東側	更所東方五百米高地東側	更所東方五百米高地東側	更所東方五百米高地東側	更所東方五百米高地東側	更所東方五百米高地東側	更所東方五百米高地東側	更所東方五百米高地東側	更所東方五百米高地東側	更所東方五百米高地東側	更所東方五百米高地東側	更所東方五百米高地東側	更所東方五百米高地東側	更所東方五百米高地東側	
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	
比嘉東側	比嘉北側	比嘉西側	比嘉南側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	比嘉東側	
新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	新里八ノ高地南方二百米	
增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒	增原北方一軒

三命令トシテ大綱を撰  
 つておる。

3	2	1	42	41	40	39	38	37	36	35	34
ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
一 旗原南側	二 平良南側	三 バネ東方五百米	四 古高才東側	五 別目北端西北方八百米	六 初城東端北方五百米凹地	七 福里北端東方村小月後田線	八 川治道城垣所道西側高地	九 長間南側	十 里多ノ高地西側	十一 比高北端東方五百米	十二 旗原東側
11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
十三 平良南側東方五百米	十四 川治北端西方四百米	十五 川治東方(村)原線西側	十六 川治東南方五百米間線西側	十七 嘉里州一六高地東側	十八 大高南東方五百米八ノ村原線西側	十九 大高南東方五百米	二十 花切北方間線西側	二十一 花切北方間線西側	二十二 大高西側	二十三 大高死側	二十四 福原東側

五ノ一ノ餘集做の行新  
 又命今トモウ入大網を係  
 つておる。



